

## 4 . 大学の入学定員・入学者数等の推移

# 大学の入学定員・入学者数等の推移【長期的傾向】

入学定員は増加。  
志願倍率、入学定員超過率はともに減少傾向。

(単位)千人

	18歳人口	高校卒業者	大 学				
			入学定員 A	志願者数 B	志願倍率 C = B/A	入学者数 D	入定超過率 E = D/A
昭和41年	2,491	1,557	195	513	2.63	293	1.50
昭和51年	1,543	1,325	302	650	2.15	421	1.39
平成4年	2,049	1,807	473	920	1.94	542	1.14
平成11年	1,545	1,363	525	756	1.44	590	1.12
平成21年	1,212	1,065	572	669	1.17	609	1.06
平成22年	1,216	1,071	575	680	1.18	619	1.08
平成23年	1,202	1,064	578	675	1.17	613	1.06

18歳人口  
戦後1回目の  
ピーク

18歳人口  
戦後2回目の  
減少

18歳人口  
戦後2回目の  
ピーク

私立大学入  
定未充足校  
大幅に増加

(出典) 文部科学省「学校基本調査報告書」、「全国大学一覧」

平成四年

現役志願率・・・約50%  
大学収容力・・・約60%  
大学進学率・・・約39%  
現役:浪人・・・2:1



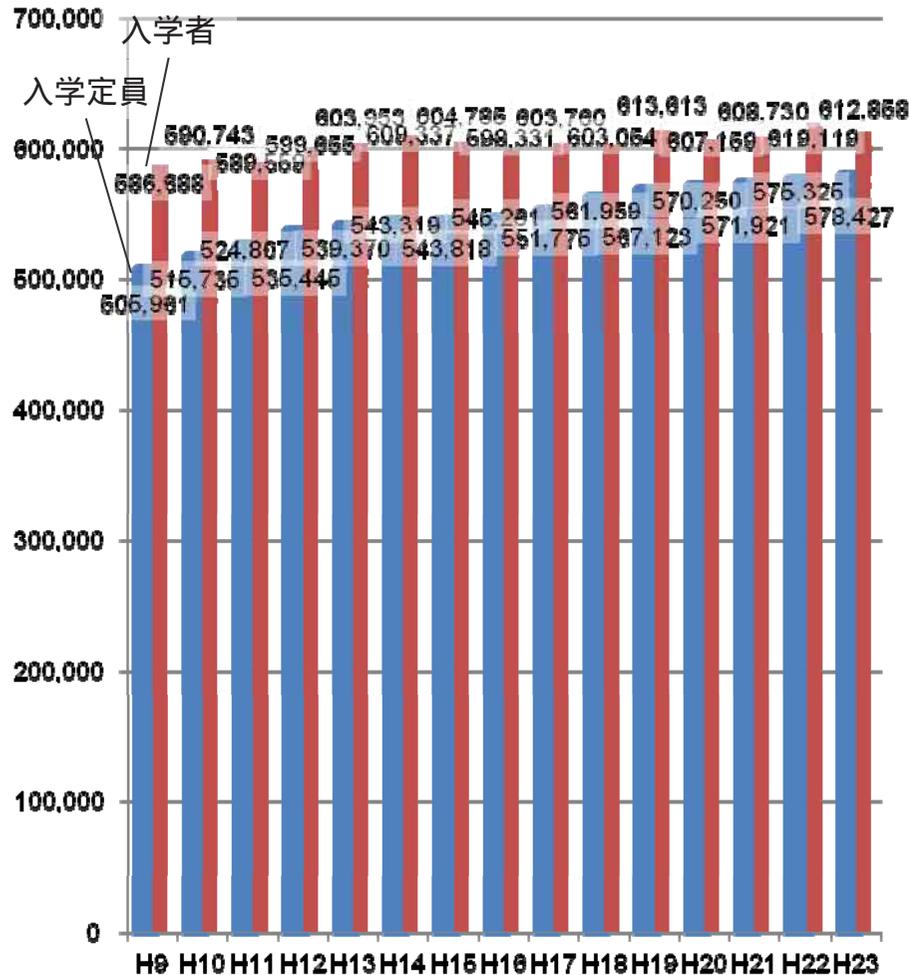
現在

現役志願率・・・約55%  
大学収容力・・・約92%  
大学進学率・・・約51%  
現役:浪人・・・6:1

# 大学の入学定員・入学者数等の推移【短期的傾向】

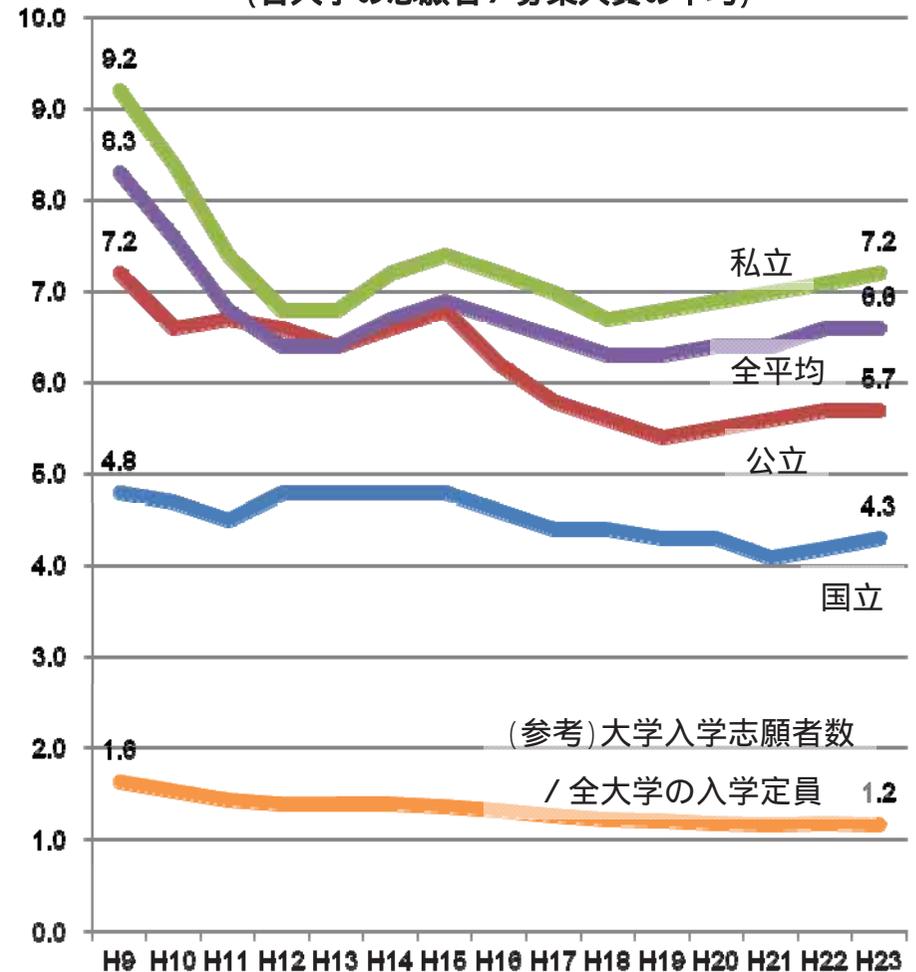
入学定員、入学者数は、H9年から約7万人の増加。  
志願倍率については、H9年から全体で1.7ポイントの減少。この5年は、微増傾向。

入学定員・入学者数の推移



出典：「学校基本調査」、「全国大学一覧」

志願倍率の推移  
(各大学の志願者 / 募集人員の平均)

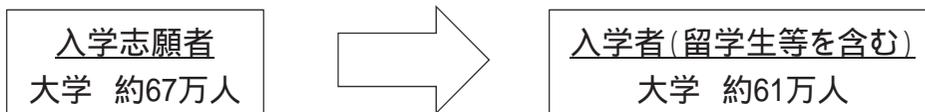


出典：文部科学省調べ 25

## 5 . 大学入学者選抜の現状

# 大学入学者選抜の現状

## 1. 平成23年度大学・短期大学への入学状況



## 2. 大学入試の基本的な考え方

大学入試の円滑な実施に資するため、以下のような基本方針に基づき、多様な入試方法や学力検査の在り方等について、毎年度、実施要項を定め、各大学に通知している。

### (基本方針)

各大学(短期大学を含む。以下同じ。)は、入学者の選抜を行うに当たり、入学志願者の大学教育を受けるにふさわしい能力・適性等を多面的に判定し、公正かつ妥当な方法で実施するとともに、高等学校(中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の高等部を含む。以下同じ。)の教育を乱すことのないよう配慮する。

能力・適性等の判定に当たっては、高等学校段階で育成される学力の重要な要素(基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学習意欲)を適切に把握するよう十分留意する。なお、高等学校の学科ごとの特性にも配慮する。

また、各大学は、当該大学・学部等の教育理念、教育内容等に応じた入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)を明確にするとともに、これに基づき、入学後の教育との関連を十分に踏まえた上で、入試方法の多様化、評価尺度の多元化に努める。

平成25年度大学入学者選抜実施要項より

主な入試方法は以下のとおり。

### (1) 一般入試

調査書の内容、学力検査、面接・小論文等大学が適当と認める資料や方法により判定する方法。

### (2) 推薦入試

出身学校長の推薦に基づいて、原則として学力検査等を免除し、調査書を主な資料として、面接・小論文等を活用して判定する方法。

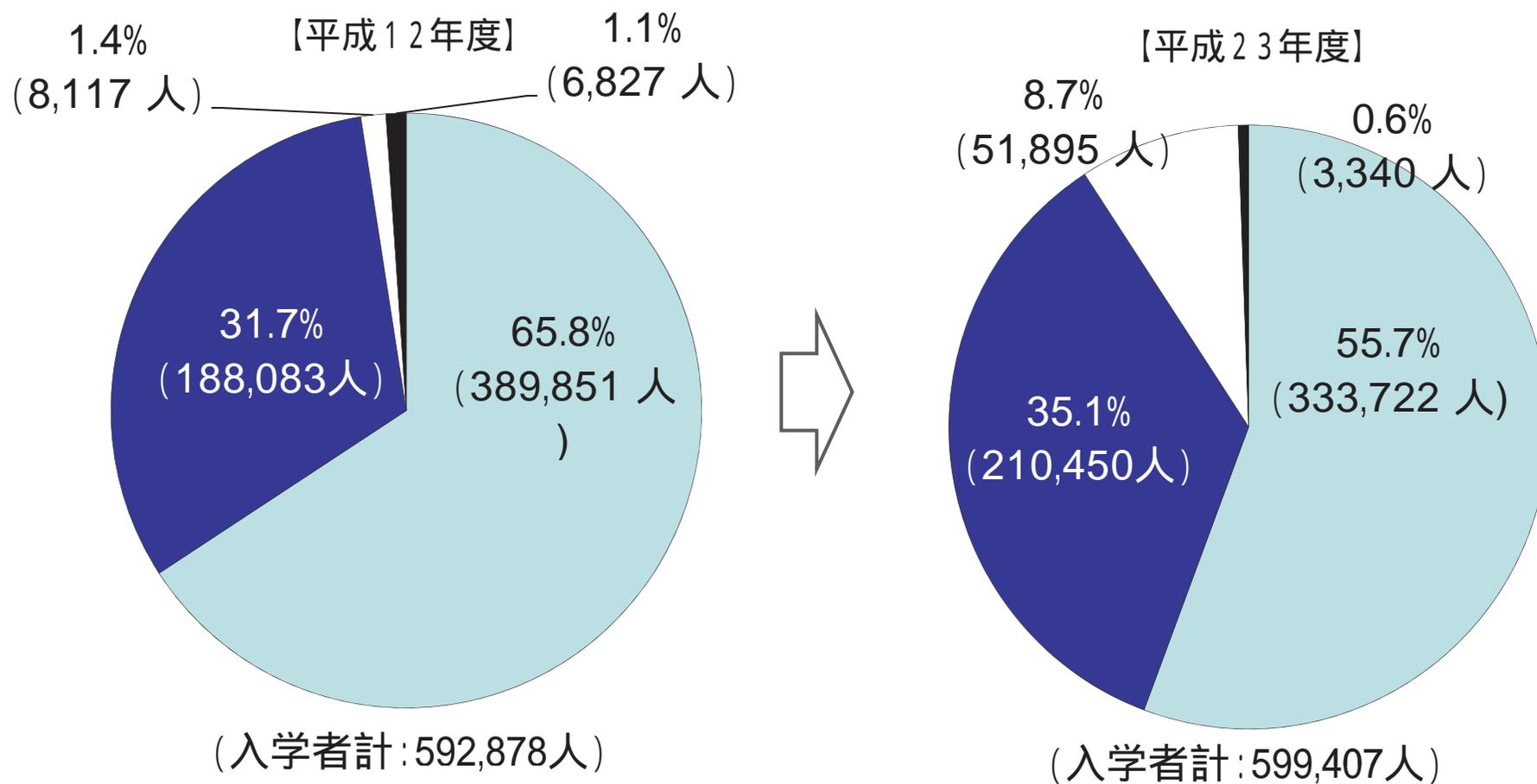
### (3) アドミッション・オフィス入試(AO入試)

学力試験に偏ることなく、詳細な書類審査と時間をかけた丁寧な面接等を組み合わせ、受験生の能力・適性や学習に対する意欲・目的等を総合的に判定する方法。

## 6 . 平成23年度入学者選抜実施状況の概要

# 平成23年度入学者選抜実施状況の概要（平成12年との比較）

平成12年度(AO入試調査開始年度)に比べて、AO入試、推薦入試を経由した入学者が大きく増加しており、入試方法の多様化が進んでいる。



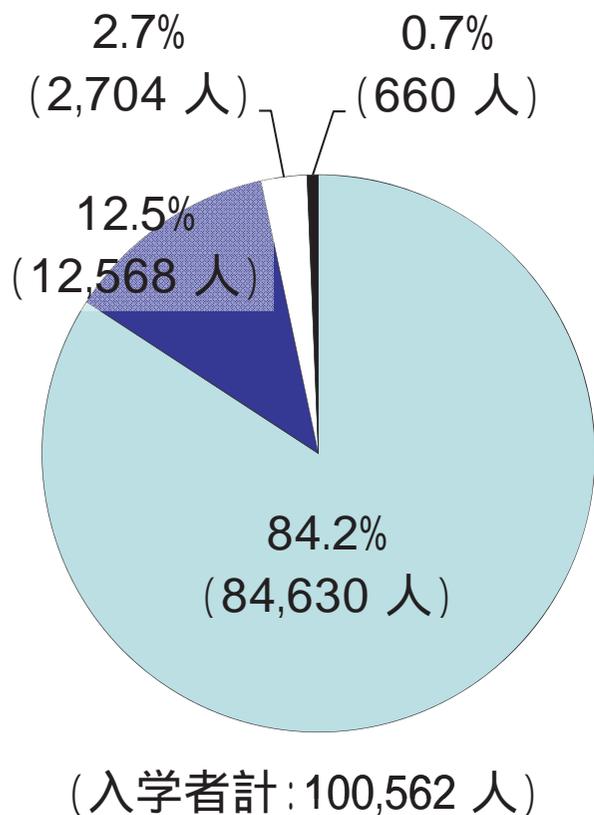
■一般入試 ■推薦入試 □アドミッション・オフィス入試 ■その他

(注)「その他」: 専門高校・総合学科卒業生入試、社会人入試、帰国子女・中国引揚者等子女入試など

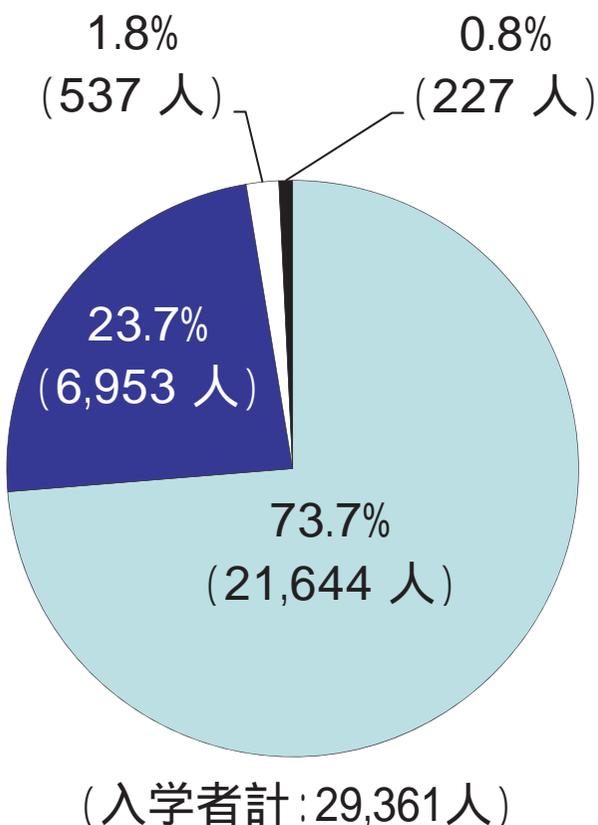
# 平成23年度入学者選抜実施状況の概要（国公立別）

国公立大学では一般選抜が中心  
 私立では約半数がAO入試 推薦入試を經由して入学している

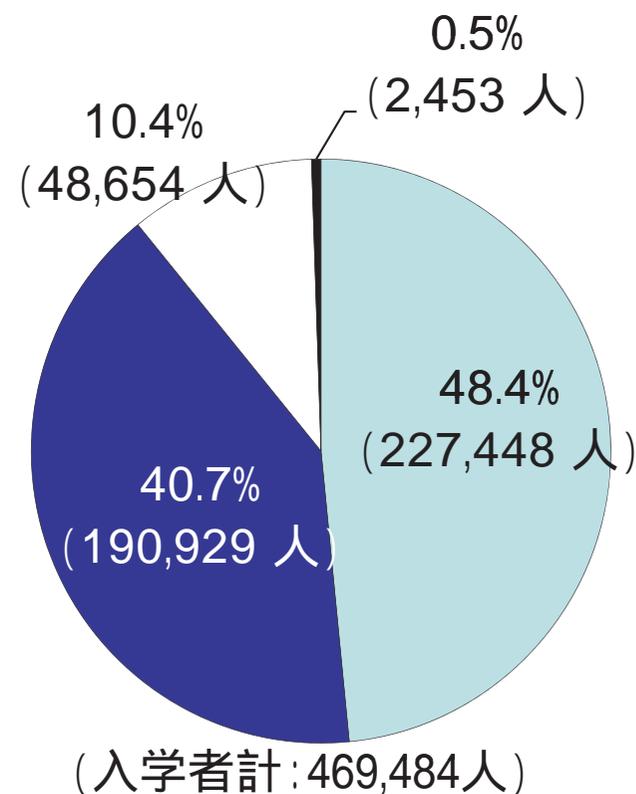
【国立大学】



【公立大学】



【私立大学】

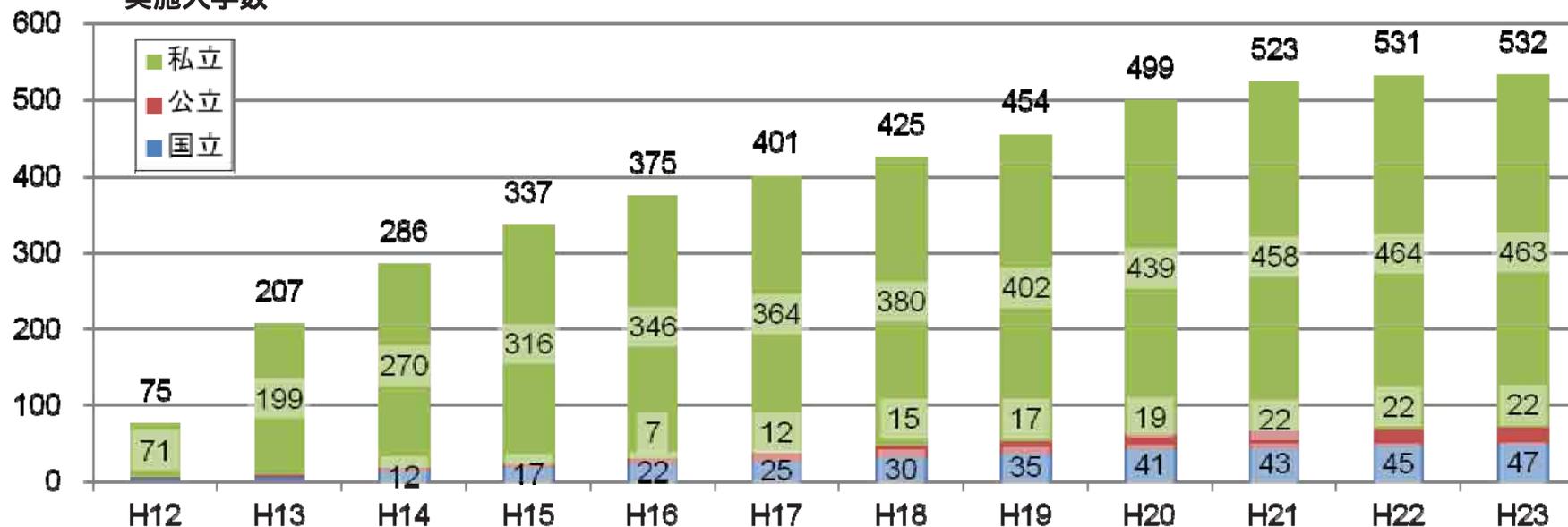


■一般入試 ■推薦入試 □アドミッション・オフィス入試 ■その他

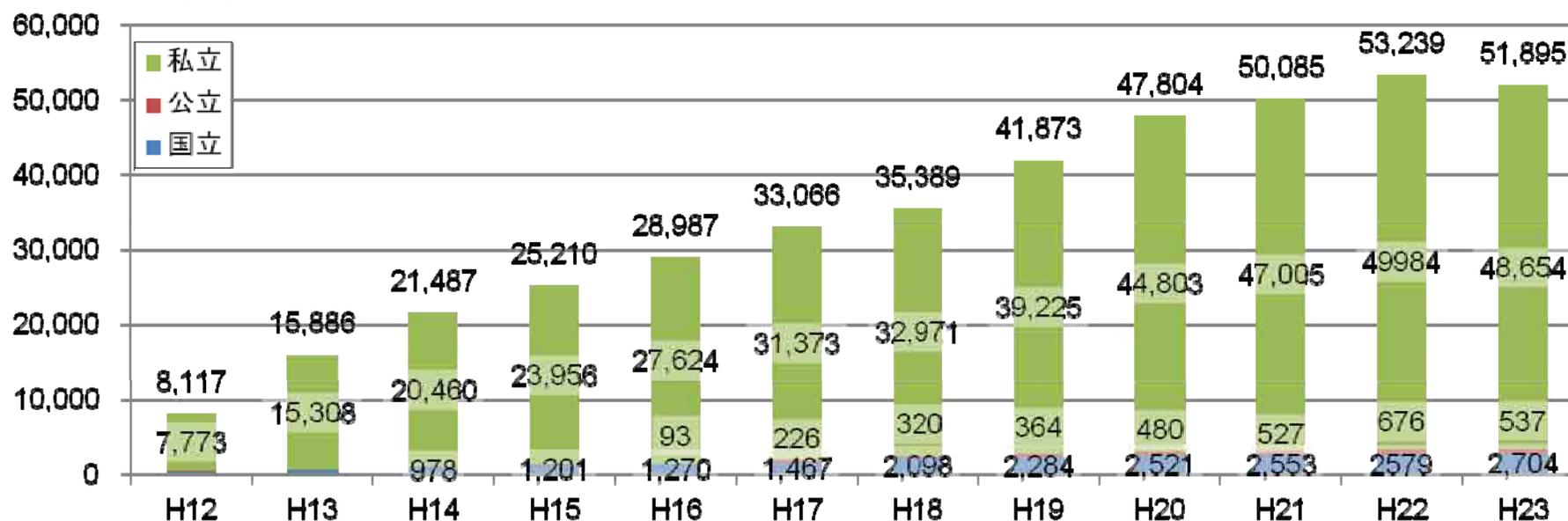
## 7. AO入試の実施状況

# A O入試の実施状況

実施大学数



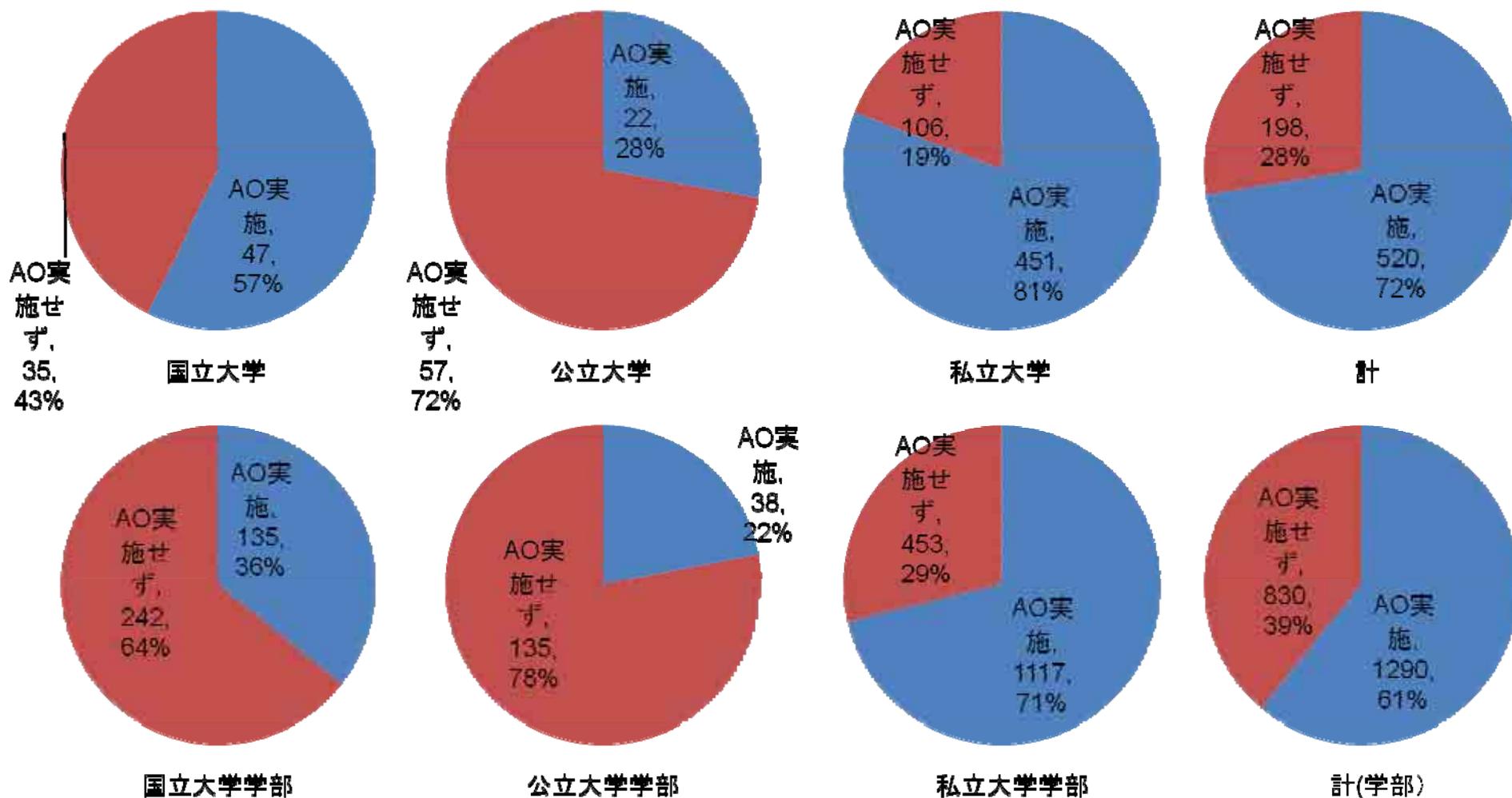
入学者数



# 平成23年度大学入学者選抜におけるAO入試の実施状況について AO入試実施大学数・学部数

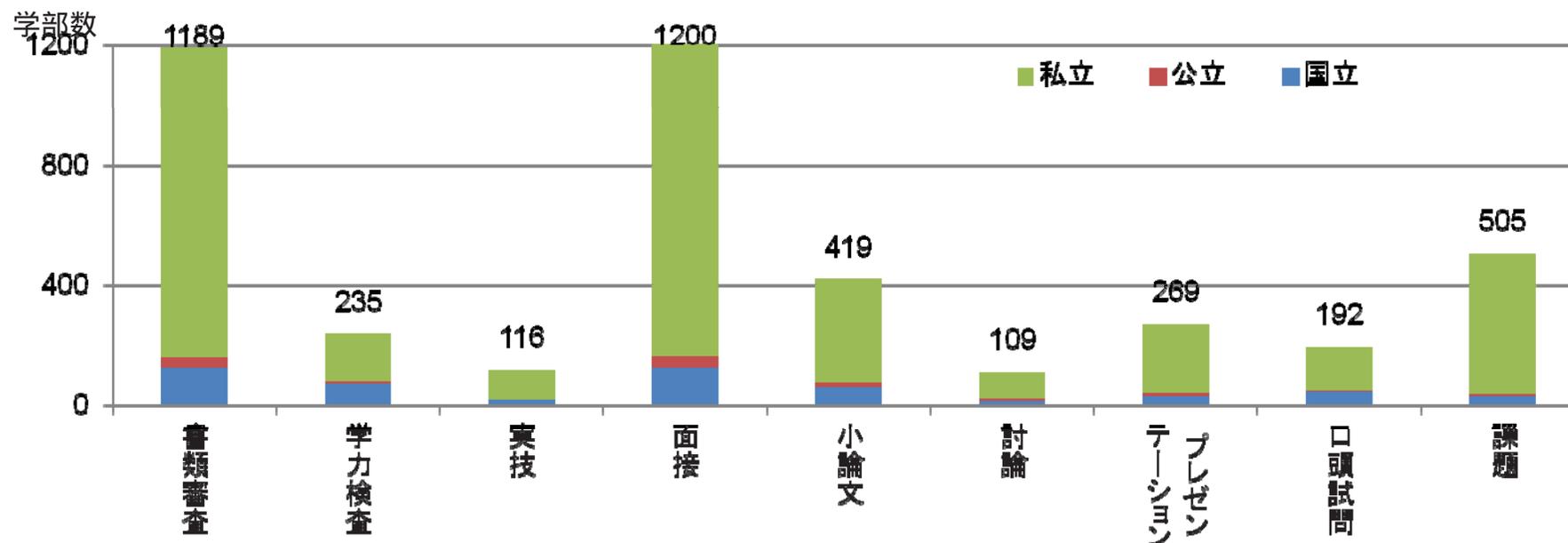
調査対象...平成23年度に学生募集を行った国公立大学及び公立短期大学 (回収率:大学98%、短大92%)

AO入試は約7割の大学、約6割の学部で実施されている。(割合は回答のあった大学・学部全体に占める割合)

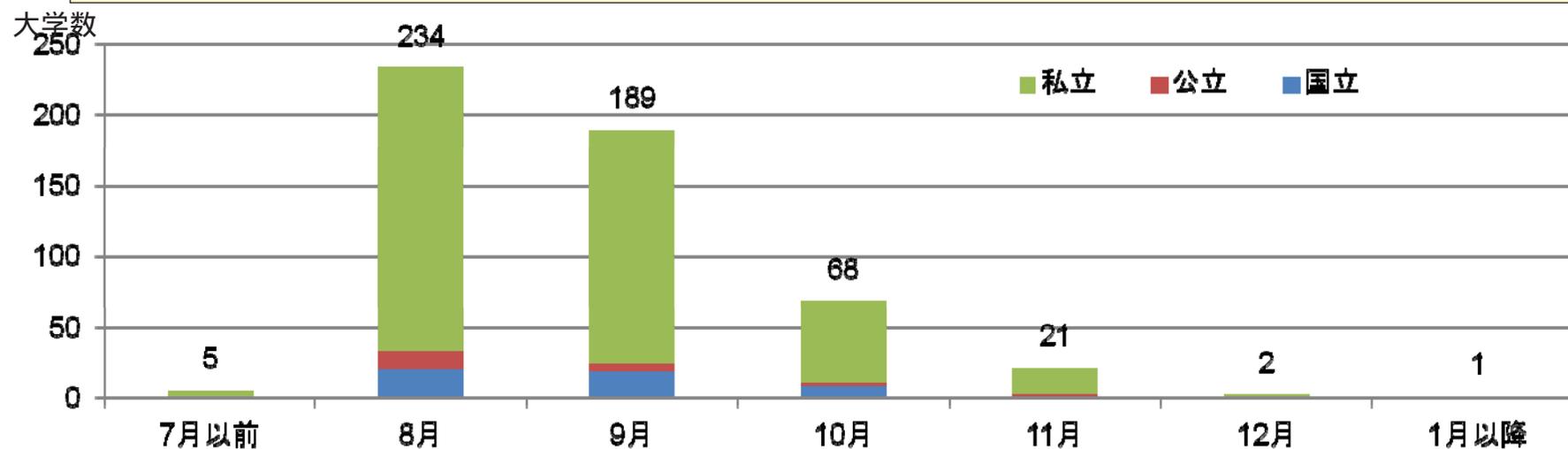


# 平成23年度大学入学者選抜におけるAO入試の実施状況について AO入試の選抜方式について(学部数)・AOの出願時期(大学数)

AO入試を実施する学部の約9割は書類審査と面接による選抜を実施 (AO実施学部は1290学部)。



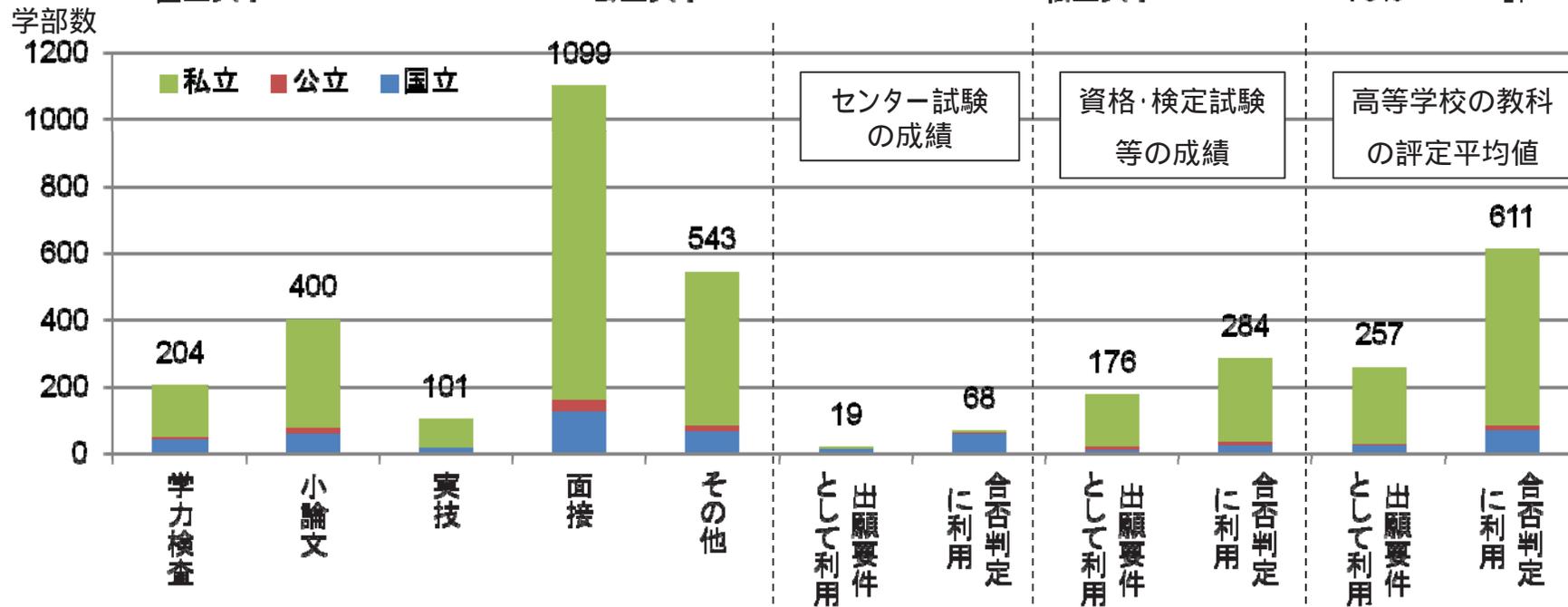
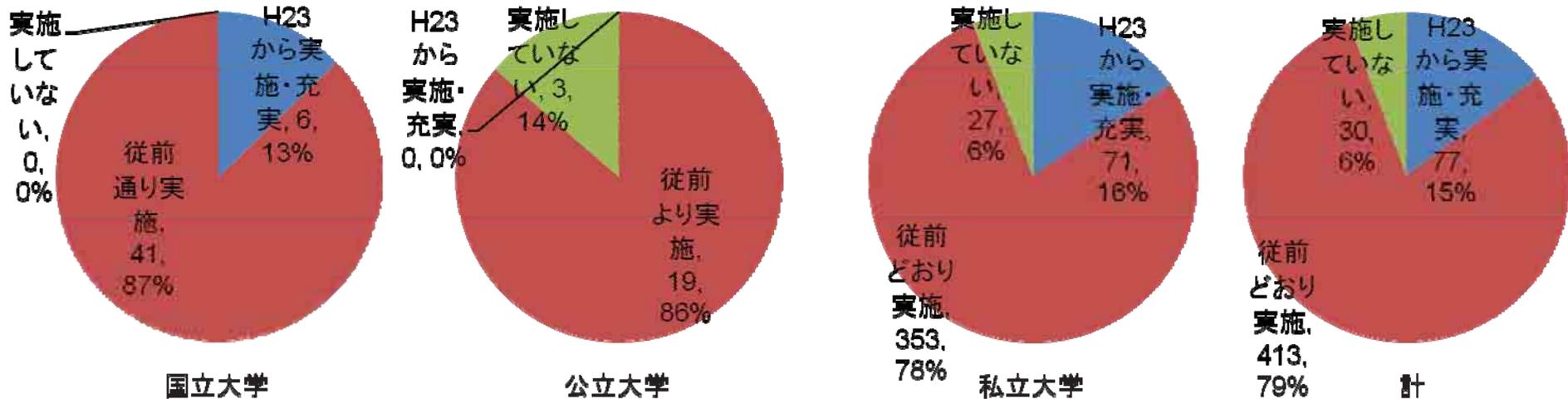
AO入試を実施する大学の約9割以上が8月～10月に受験時期を設定。



# 平成23年度大学入学者選抜におけるAO入試の実施状況について

## AO入試における学力把握措置

AO入試を実施する大学の約9割では、何らかの学力把握措置を講じていると回答。



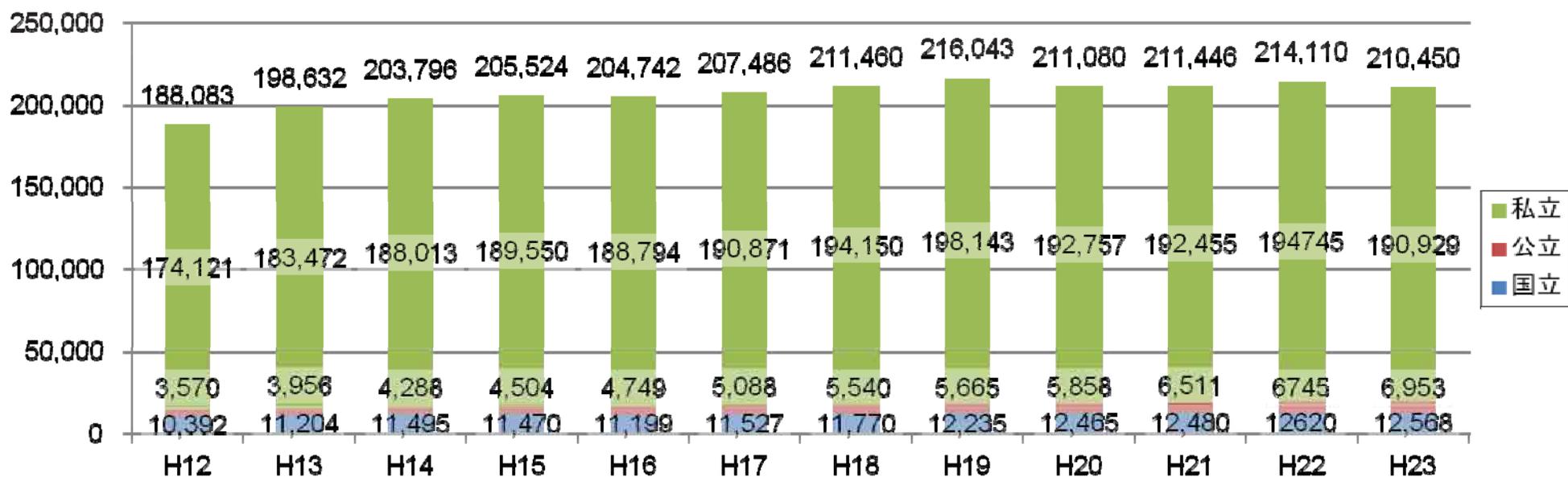
## 8 . 推薦入試の実施状況

# 推薦入試の実施状況

実施大学数



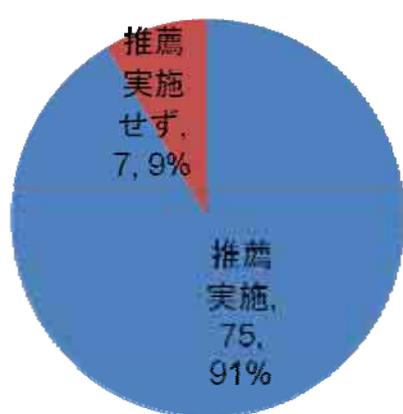
入学者数



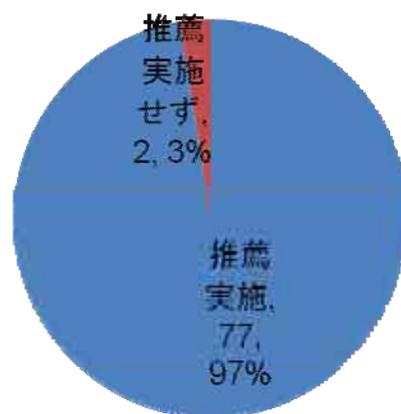
# 平成23年度大学入学者選抜における推薦入試の実施状況について 推薦入試実施大学数・学部数

調査対象...平成23年度に学生募集を行った国公立大学及び公私立短期大学（回収率:大学98%、短大92%）

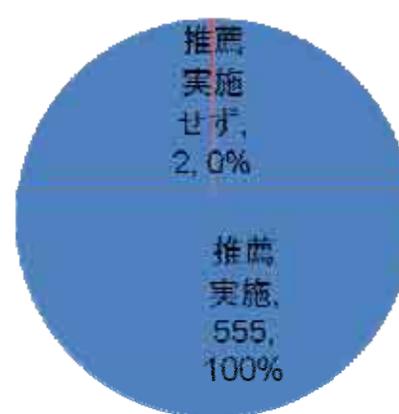
推薦入試は約98%の大学、約93%の学部で実施されている。（割合は回答のあった大学・学部全体に占める割合）



国立大学



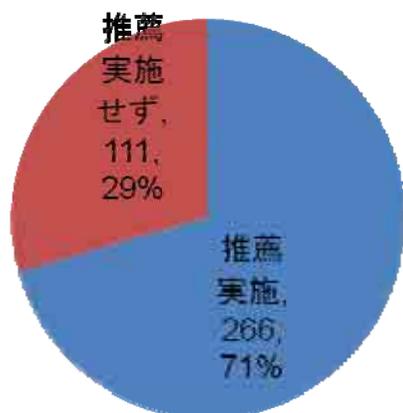
公立大学



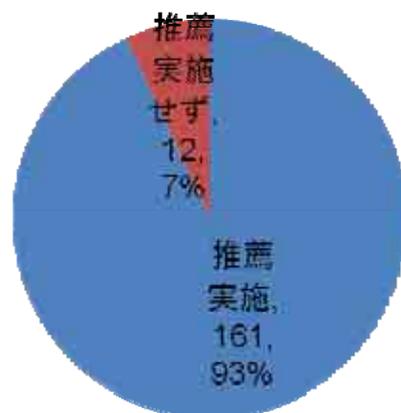
私立大学



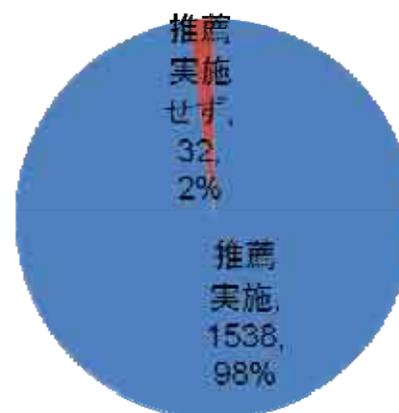
計



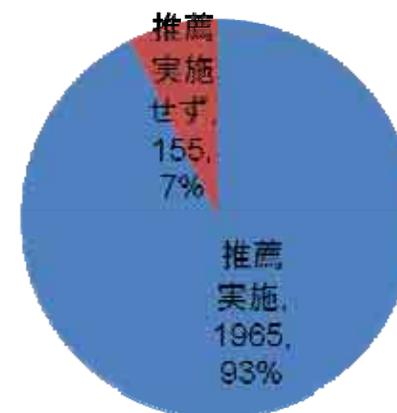
国立大学学部



公立大学学部



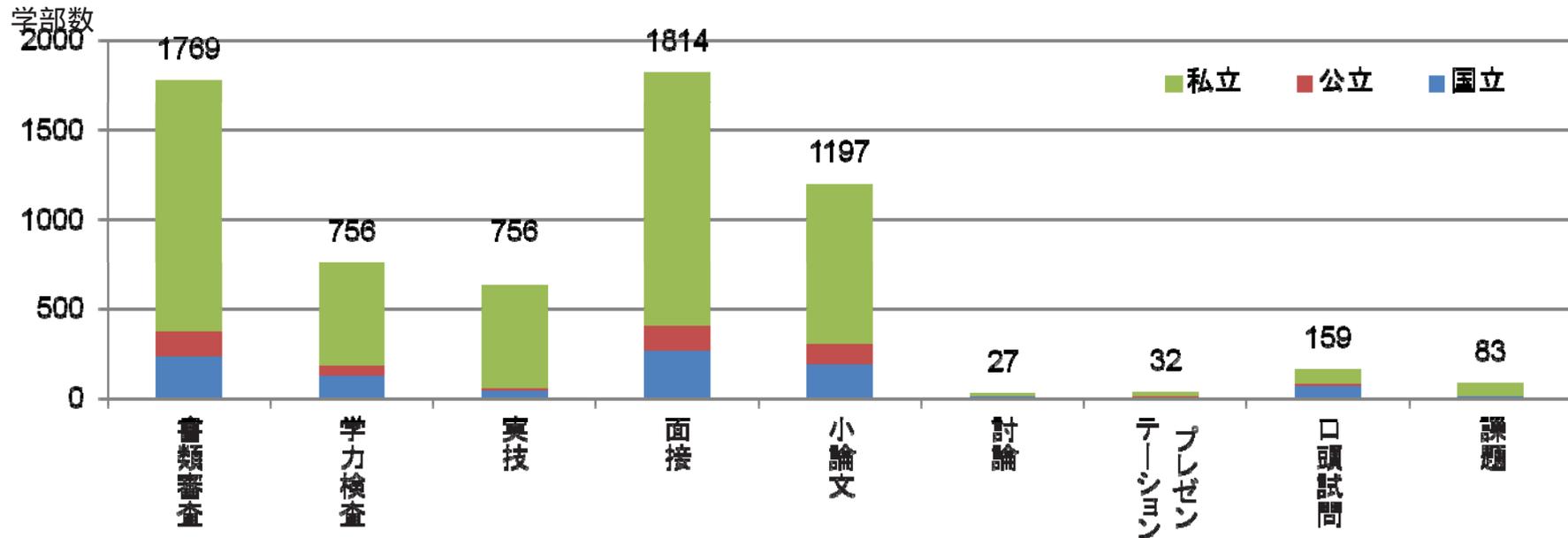
私立大学学部



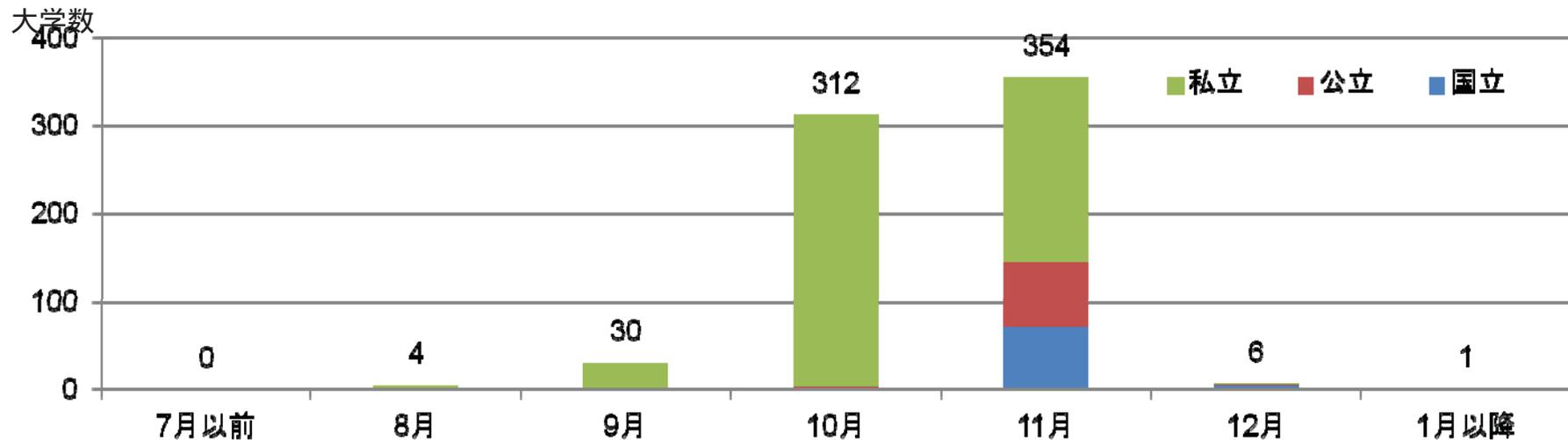
計(学部)

# 平成23年度大学入学者選抜における推薦入試の実施状況について 推薦入試の選抜方式について(学部数)・推薦の出願時期(大学数)

推薦入試を実施する学部の約9割は書類審査と面接による選抜を実施し、6割が小論文を実施(推薦実施学部は1965学部)。

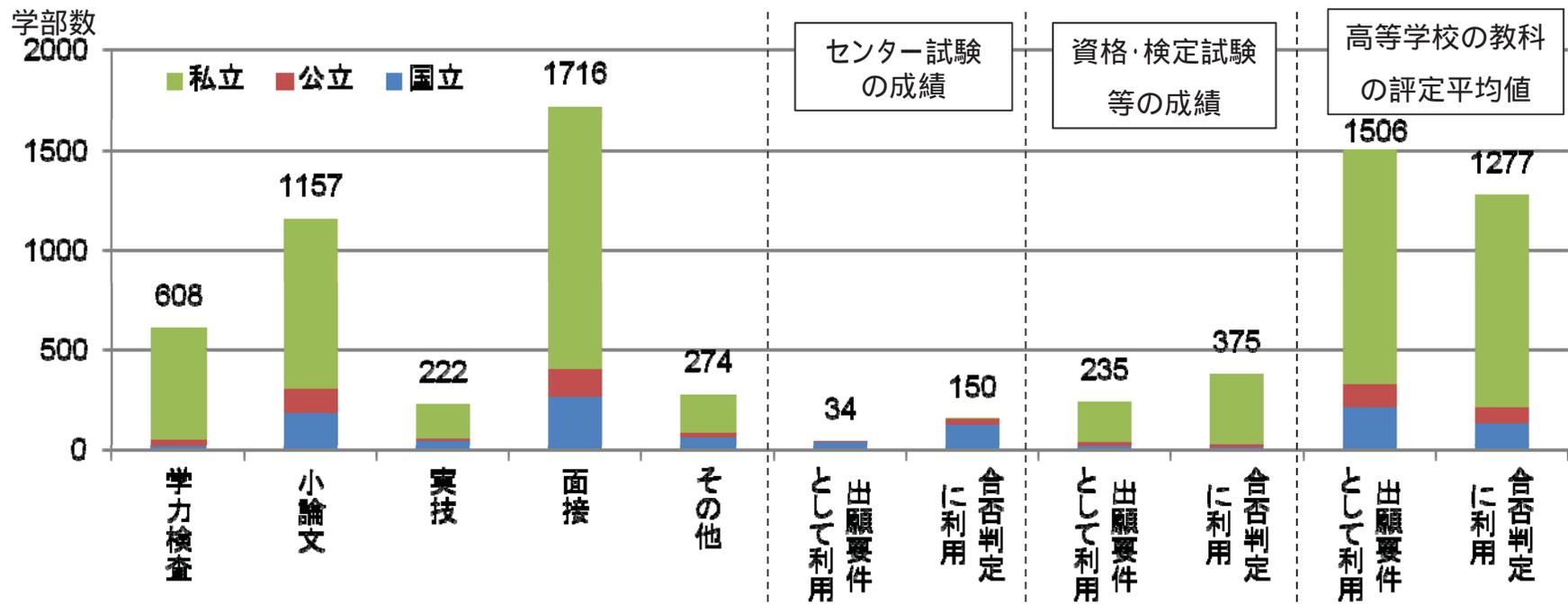
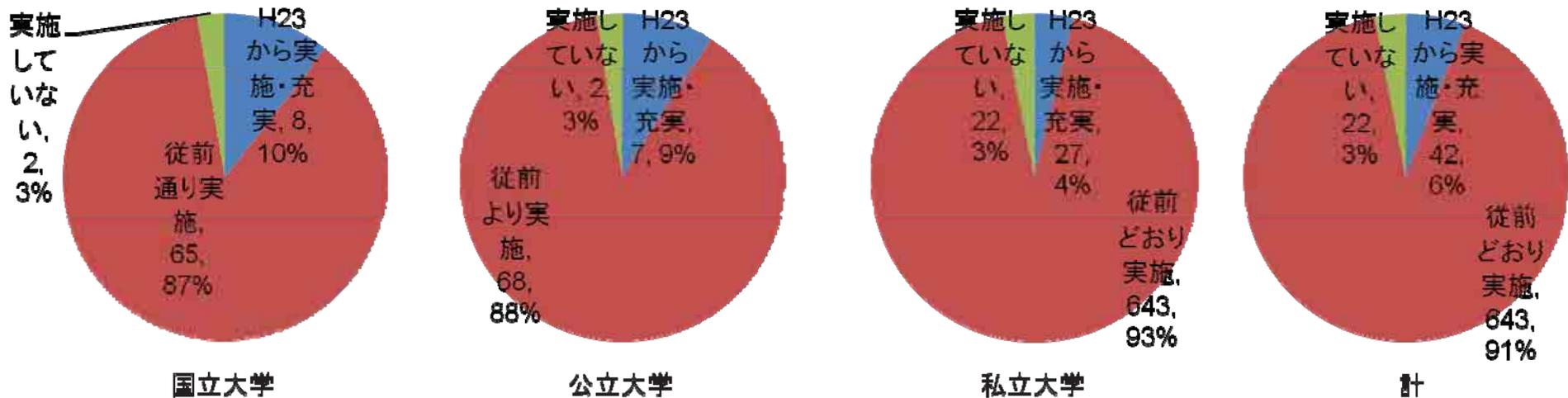


推薦入試を実施する大学の約9割以上が10月・11月に出願時期を設定。



# 平成23年度大学入学者選抜における推薦入試の実施状況について 推薦入試における学力把握措置

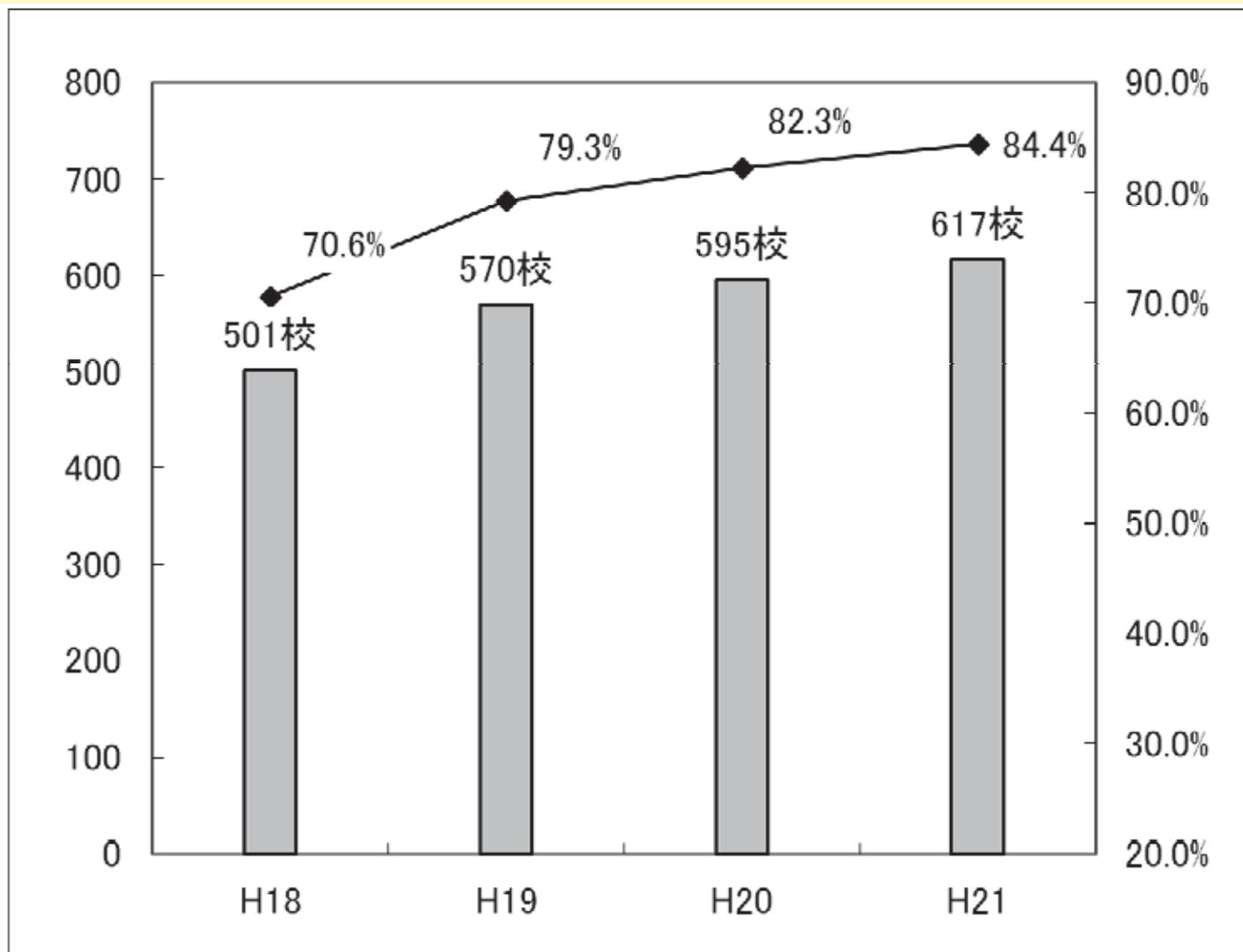
推薦入試を実施する大学の約9割では、何らかの学力把握措置を講じていると回答。



## 9 . 高大接続関連

# 初年次教育を導入する大学数及び割合の推移 (H18 - 21)

初年時教育を導入する大学数は増加傾向



「大学における教育内容等の改善状況について」より作成

# 学力保証（高校教育段階）に関する過去の答申（抜粋）

## 学士課程答申（平成20年12月24日 中央教育審議会）

第3節 入学者受入れの方針について ～高等学校段階の学習成果の適切な把握・評価を～

### 1 入学者選抜

#### (1) 現状と課題

いわゆる大学全入と高等学校教育・大学教育の新たな課題

#### (ウ) (一部略)

また、高等学校では、これまでのように、大学入試の存在自体が大学進学希望者の学習意欲を喚起し、高等学校の指導と相乗して学力を定着させることが困難になりつつあるという、入試方法の改善では解決できない問題も指摘されている。

#### (エ) (一部略)

今後、高等学校・大学は、入試によって学力水準を担保できるという考え方から、様々な方法で客観的に学力を把握し、それを高等学校の指導の改善や大学入試、大学の初年次教育の基礎資料として役立てていくことを通じて学力水準の向上を図るという考え方への転換が求められる。

高等学校と大学の接続の在り方の見直し

#### (ア) (一部略)

大学入試の選抜機能の低下が高等学校における大学進学希望者の学習意欲の喚起や指導に影響し、大学の約6割が高等学校の履修状況に配慮した取組が必要となる現在、高等学校・大学は選抜だけではないつながる関係から、客観的できめ細やかな学力の把握とそれに基づく適切な指導によって学力向上が図られるよう、共に力を合わせて取り組む関係へと転換することが求められている。

すなわち、大学全入時代を迎えた今日、教育の質を保証する観点から、システムとして高等学校と大学との接続の在り方を見直すことが重要である。

## (2) 改革の方向

### (イ)

また、教育の質を保証する観点から、単に個別の学校の努力のみに委ねるのではなく、システムとして、高等学校と大学との接続の在り方を見直していくことが求められる。従来、主に過度の受験競争の緩和の観点から、入学者選抜の改善等が推進されてきたが、今後は、各学校段階で最低限必要な知識・技能等を身に付け、若者が人生の階梯を着実に歩いていく仕組みを再構築していくことが重要である。

### (ウ)

本答申を契機に、生徒・学生が意欲を持って学んでいくことができるよう、高等学校及び大学の関係者が緊密に連携を図り、これらの点を踏まえた新たな枠組みづくりに向けた主体的な議論を進めていくことを期待したい。

### (エ)

この中で提言している「高大接続テスト(仮称)」に関しては、学力を客観的に把握する方法の一つとして一定の意義があると考えられる一方、高等学校教育の在り方との関係上、留意すべき点も種々あることから、高等学校及び大学関係者間の十分な協議・研究が行われることを期待する。また、この新たな仕組みも含めて、今後、高等学校教育全体の質保証に向けた取組が進められることを望みたい。

## (3) 具体的な改善方策

高等学校段階の学力を客観的に把握・活用できる新たな仕組みづくりについて、高大接続の観点からの取組を進める。

調査書の活用を促進する観点に立って、その様式を見直す。また、高等学校段階での学力を客観的に把握する方法の一つとして、高等学校の指導改善や大学の初年次教育、大学入試などに高等学校・大学が任意に活用できる学力検査(「高大接続テスト(仮称)」)に関し、高等学校・大学の関係者が十分に協議・研究するよう促す。(協議・研究に際しては、大学入試センター試験や各大学の個別学力検査との関係、卒業や入学に関する各校長・各学長の責任・権限、高等学校教育に与える影響、高校生の負担感等についての配慮が必要。)

# 高大接続の国際比較：接続の2側面と日本の特殊性

	(1) 教育上の接続 = 学力把握	(2) 進学先選択上の接続 = 選抜
アメリカ・ 欧州	共通テスト 資格試験(バカロレア、アビトゥーア、GCE)、任意の共通テスト(ACT、SAT)	個別学力試験なしの選抜(書類、面接など) 別個の共通・個別試験があるのは英仏のごく特殊校
日本	なし(高校卒業は高校長の権限)	個別学力入試 AO・推薦入試